

# 二宮町まちづくり評価委員会

## 2. 環境と風景が息づくまちづくり

### ①各委員からの意見

- ・緑が多いと感じる市町はあるが、自然と触れあえる環境は二宮町の特徴となっている。
- ・歴史や文化の発信が弱く感じており、魅力をどのように伝えていくか考える必要がある。
- ・最近では、道の駅など、素材を置くだけでなく、資源として開発を行い、活性化しているところが増えている。
- ・二宮ブランドの開発は素材だけを売るのではなく、生活の質や町の風景、文化そのものを融合して進めることが大事。
- ・ハードとソフトが融合し、大きなブランドが形として表現され具体化すれば価値が高まっていく。
- ・二宮町では以前は落花生が有名で、現在は吾妻山の菜の花が有名になっている。ブランドを含めて周知やマーケティングをして有効に活用する必要がある。
- ・二宮町のように手軽に海と山に行ける環境は魅力であり、そこを動線をつなぎ、回遊性を持たせることも必要。
- ・吾妻山公園はピークに来ている。駅から登る方、車で来る来園者がいるため、ブランドや物産は、駐車場で販売するなど工夫が必要。
- ・個別の施策は実施しているが横のつながりが弱いので、強化していく必要がある。
- ・情報発信を強化する必要がある。情報は欲しい人が欲しい時に得られる情報でなければならない。また、常に二宮町という言葉が入ってくる必要がある。
- ・素材が無くてもアイデアが大事で、ゼロから物を作っても良いと思う。
- ・政策を見ていると多数あり、やり過ぎている。選択と集中の必要がある。
- ・戦術を細かくし過ぎると焦点がぼやけてしまう。戦略と戦術をしっかりとわけて見せていく必要がある。
- ・民間ではアンケートの過半数を超えることを取り入れても成果はあがらず、1%の意見を取り入れた結果、大幅に成果があがったことがある。合意形成を取るにはアンケートは必要であるが、ひとつひとつに魅力があることを忘れてはならない。
- ・商業や観光振興では、ビジョンからコンセプトに落とし込む際の専門分野のスキルが重要であり、これまでにない発想の転換とPDCAサイクルの管理が大きなポイントになる。

## ②まちづくり評価委員会としての意見

評価指標	
------	--

環境と風景が息づくまちづくりとして政策を引き続き進めることは必要と考える。

緑が多いと感じる市町はあるが、自然と触れあえ、手軽に海と山に行ける環境は二宮町の特性であり、その他にも様々な素材が存在している。歴史や文化など、全般的に発信力が弱く、情報を欲しい人が欲しい時に得られる情報発信の強化を図る必要がある。特に、吾妻山の菜の花は認知度が高く、集客力があることから、人の流れや動線を意識し物販戦略に繋げるなど、町の活性化に結び付け、併せて、二宮ブランドを活用した戦略としての検討をすることが必要と考える。

活性化するためのブランド開発においては、生活の質や町の風景、文化などの素材や資源を融合し、魅力を高め伝えるなどアイデアが必要であり、ゼロからでも良いので具体化していくことが重要と考える。

身近な自然環境などを活用し、それを二宮ブランドとして戦略化することで、商工業の振興や地域経済の活性化が図られるものと考えている。そのためには、横のつながりの強化、情報発信力の強化、マーケティング戦略が不可欠であるので、政策の取り組みにあたっては、単に合意形成のアンケートに頼るのではなく、ひとつひとつの特化した魅力を活かし、これまでにない発想や知恵を集結させることで、環境と風景が息づくまちづくりに繋がると考える。